

わが子が NICU に入院した母親の語りに基づいた看護教育プログラム

～NICU の看護者の皆様に向けて～

I プログラムの目的

わが子が NICU に入院するお母様方は、予想外の出来事にうちのめされ、お子さんが入院した原因を自分のせいにするなど、特に出産直後は不安定な状況にあります。

このプログラムは、看護者が行ってよいこと・悪いことといった抽象的な知識の伝達ではなく、お母様方が実際に語ってくださった体験をもとにした事例を用いて、具体的な状況における看護を考える機会になるよう設計しました。また、グループで様々な看護の視点を共有することにより、今まで以上に多様な視点からお母様方への理解を深めること、臨床に应用可能な知識が得られるよう計画しました。

II プログラムの目標

- 1) 子どもが NICU に入院した母親のニーズがわかる
- 2) 子どもが NICU に入院した母親とかがかわるときの状況に応じた態度を理解する
- 3) ディスカッション・グループにおいて、NICU に入院した子どもの母親への看護実践についてのアイデアを提案し、交流することができる
- 4) プログラムを受けた後、自分の実践を振り返り、記述することができる
- 5) プログラム後の自身の看護実践の変化につき発言することができる

II プログラムの内容(2 時間)

●グループディスカッション(15 分)

NICU に入院した子どものお母様方とのかかわりで大切にしていること、課題に感じていることの共有と、「情報提供とシェアリング」で用いるケースの選択

●情報提供とシェアリング 50 分

お母様方の語りをもとに、お母様のおかれた状況を理解する。

「何故このような感情が生じたのか」「看護者ができることに何があったか」「異なる結果をもたらす可能性はあるか、それは何によるか」という視点からディスカッションする。臨床で応用するために乗り越えなければならない課題はあるか、それは何かを明らかにする。

●休憩 10 分

●事例を用いたロールプレイ 50 分

ロールプレイとディスカッション

情報提供とシェアリング

Eさんは、2ヶ月くらいNICUへ通い、子どもを眺めているうちに、わが子から癒される気持ちになっていった。生まれてすぐのときには「とんでもないことをしちゃったよ」って思っていたので、看護師から「お母さんのせいじゃない」と言われても、「これは私のせい以外の何でもないよ」と思っていた。しかし、面会に通っているうちに、「もし私のせいだとしても、この子は許してくれてるかな」という気持ちになっていった。

Eさんの語り：やっぱりその、薄々、そんなに、「自分のせいじゃないかも」っていうか、だんだん、子どもに許されていく実感っていうのがあるんですよね、だんだん会っているうちに。だんだんこう状態も落ち着いてきて育ててきて、で、こう、自分が行くと反応するとかって、看護師さんが言ってくれたりすると、なんとなくこう、眺めているうちに、自分の子どもから癒されるっていうか、そういう風になってくるんですよ。面会に通っているうちに。2ヶ月とか経つと。そのくらいのタイミングだったら、何となくその、「お母さんのせいじゃないですもんね」って言われれば、「そうかな」っていうか、「もしそうだったとしてもこの子は許してくれてるかな」っていう気持ちになってるので、そう思えるんです。

1. 何故 Eさんは、このような感情が生じたと思いますか？
2. 看護師ができることに何がありましたか？
3. 異なる結果をもたらす可能性はありますか？
4. 皆さんが臨床で応用するために乗り越えなければならない課題はありますか？

Aさんは、看護師から子どもの体重やミルクの量を教えてもらって嬉しく思っていた。

Aさんの語り：結構こう、嬉しいことって言ったら、体重が増えた減ったぐらいなものなんですけど、ミルクの量がちょっと増えたとか、ミルク飲ませますねとか。なんかほんと少し、少しずつの嬉しいことをちゃんと言ってくださって、うん。すごくこっちは頑張ろうじゃないけど。状態を伝えてくれるから、すごく嬉しいって感じたのかもしれないです。なんとなく、ちょっと不安なところもあったり、そういうのも全部伝えてくれてるんです。でも、それでもなんか、ちゃんと、包み隠さずっていうんではないんだろうけど、なんか、難しいこと言わないで、ちゃんと伝えて下さってたのかなあって。だから安心していられたのかもしれないですね。

たとえ不安なところがあっても、隠さずに、Aさんのわかりやすい言葉で伝えてくれることで安心してました。しかしBさんの場合は、子どもの様子を積極的に教えてくれる看護師と教えてくれない看護師がいた。

Bさんの語り：「泣いて泣いて困るんですよ～」って言われて、様子を伝えてもらうの、嬉しかったですね。うーん。もう1時間ぐらい、ミルクの時間がああいうところは決まっているので、ミルクの時間の1時間ぐらい前になるともう、泣き出すんですよ。で、「もう、一気に飲んで、まだ欲しいって言って、さらにまた泣くんですよ」という様子をね、伝えてもらったのが、嬉しかったですね。そういうのも、よく話していただける方と、何にも話していただけない方がいらっしゃるんですよ。

1. 何故AさんとBさんは、このような感情が生じたと思いますか？
2. 看護師ができることに何がありましたか？
3. 異なる結果をもたらす可能性はありますか？
4. 皆さんが臨床で応用するために乗り越えなければならない課題はありますか？

Bさんは忙しそうな NICU の看護師に遠慮があり、自分から言葉を発することはできなかった。

Bさんの語り：うつぶせだと、「うつぶせで大丈夫？呼吸苦しくない？」とか、いろんなことを心配しちゃうんですね。あと、着替えさせてもらったとき、うんちがちょっとついてても、それが、「まだついてますよ」と一言いえなかったりっていうのは、まだ結構残ってますけど。

1. 何故 Bさんは、このような感情が生じたと思いますか？
2. 看護者ができることに何がありましたか？
3. 異なる結果をもたらす可能性はありますか？
4. 皆さんが臨床で応用するために乗り越えなければならない課題はありますか？

事例を用いたロールプレイ（NICU）

事例1 重篤な子どもの母親

事例2 なかなか面会に来ない母親

事例3 細かなことが気になる母親

ロールプレイのすすめ方

1. 一人一回、看護師か母親の役を行ないます。ロールを決めて、下の表に書いておきます。
ロールを演じない人は、観察者となります。
2. まず、事例を読んでください。
3. ロールプレイをはじめます。5分くらいです。
4. 途中で言葉につまってしまったり、演ずることをやめたくなった時にはいつでも「ストップ！」と声をかけてください。ロールプレイをやめることができます。
5. ロールプレイについて、感想を話し合しましょう。
観察者の人は、母親役か看護師役のどちらかを選択して観察します。演じてくださった母親役・看護師役の方々の感想や考えと異なる考えを中心にお話してください。皆さんの看護の視点を広げることに役立ちます。
6. 最後にねぎらいの拍手をしましょう。

役割分担表

母親	看護師	観 察 者			
		母親		看護師	

事例 1 重篤な子どもの母親

母親 林めぐみさん 28歳 初産婦 初めての出産

妊娠30週で破水し、感染徴候がみられ、帝王切開で出産。羊水混濁(+++)。

子どもは自発呼吸がなく、挿管後 NICU へ入院となる。

本日出産後3日目だが、子どもの容態が安定せず、生命の危険についてめぐみさんに医師より説明があった。

医療スタッフ 中村さん 助産師 NICU スタッフ

<場面> 出産後3日目、医師から子どもの生命の危険について話があった後、点滴スタンドを持ちながら子どもに面会に来ためぐみさん。子どもはちょうど、肺のX線などの検査があるため、めぐみさんは検査が終わるまでお待ちいただいているところ。

メモ

事例2 なかなか面会に来ない母親

母親 石井絵里さん 25歳 経産婦。上のお子さんは2歳。
妊娠高血圧症とIUGRのため、管理入院していたが、胎児の発育が緩慢なため、予定の帝王切開で31週2日に1890gの男児を出産する。
絵里さんは、出産後1日目に夫の卓郎さん（25歳、会社員）と面会に訪れるが、その後帝王切開の傷が痛いという理由で、面会に来ない日が続く。夫と上のお子さんの面会時は表情がよいと産科病棟より情報がある。

医療スタッフ 金沢さん 看護師 NICUスタッフ。 石井さんとは一度も面識がない。

<場面> 出産後10日目のお昼。退院後は、自宅が病院から遠いので面会に来づらくなるかもしれないので、「今のうちに会っておいたほうがよいのでは？」と、産科病棟のスタッフに促されて金沢さんが一人で面会に来る。

メモ

事例3 細かなことが気になる母親

母親 深井綾子さん 27歳 初産婦

妊娠経過は問題なく、39週1日に陣痛発来し経膈分娩。

3800gの女児が出生するが、二分脊椎が認められ、NICUへ入院する。

看護者 朝倉さん NICUの看護師

<場面> 出産後4日目。綾子さんは毎日NICUへ面会に来ており、今日も一人で訪れました。赤ちゃんの様子をじっと真剣なまなざしで見えています。朝倉さんは、赤ちゃんが泣いたのでおむつを交換しようと思いました。綾子さんは、朝倉さんがおむつを交換する一部始終を何も言わずにじっと眺めていました。すると綾子さんは、「この前の看護師さんは、おむつのテープ、もう少しゆるく止めていましたけど、きつくないんでしょうか？」と質問しました。

メモ

わが子が NICU に入院した母親の語りに基づいた看護教育プログラム

～産科病棟の看護者の皆様に向けて～

I プログラムの目的

わが子が NICU に入院するお母様方は、予想外の出来事にうちのめされ、お子さんが入院した原因を自分のせいにするなど、特に出産直後は不安定な状況にあります。

このプログラムは、看護者が行ってよいこと・悪いことといった抽象的な知識の伝達ではなく、お母様方が実際に語ってくださった体験をもとにした事例を用いて、具体的な状況における看護を考える機会になるよう設計しました。また、グループで様々な看護の視点を共有することにより、今まで以上に多様な視点からお母様方への理解を深めること、臨床に应用可能な知識が得られるよう計画しました。

II プログラムの目標

- 1) 子どもが NICU に入院した母親のニーズを理解する
 - 2) 子どもが NICU に入院した母親とかわるときの状況に応じた態度を理解する
 - 3) ディスカッション・グループにおいて、NICU に入院した子どもの母親への看護実践についてのアイデアを提案し、交流することができる
 - 4) NICU に入院した子どもの母親への看護実践についての看護者自身の知識、技能、信念を同僚と言語で共有することができる
 - 5) プログラムを受けた後、自分の実践を内省し、記述することができる
- *5) の内省の記述は、本日のプログラムの後 3 週間頃に出会ったお母様とのかかわりについて、後日記述してください。1 ヶ月後のフォローアップの会のときに用います。

II プログラムの内容(2 時間)

●グループディスカッション(15 分)

NICU に入院した子どものお母様方とのかかわりで大切にしていること、課題に感じていることの共有と、「情報提供とシェアリング」で用いるケースの選択

●情報提供とシェアリング 50 分

お母様方の語りをもとに、お母様のおかれた状況を理解する。

「何故このような感情が生じたのか」「看護者ができることに何があったか」「異なる結果をもたらす可能性はあるか、それは何によるか」という視点からディスカッションする。臨床で応用するために乗り越えなければならない課題はあるか、それは何かを明らかにする。

●休憩 10 分

●事例を用いたロールプレイ(1 事例) 50 分

ロールプレイとディスカッション

情報提供とシェアリング

*情報提供に用いるナラティブは、いくつか用意しておき、最初のグループインタビューの内容と参加者のニーズにあわせて1事例を選択して行なうこととする。

I 急な母体搬送の場面

Cさんは、33週の定期健診のときに血圧が上がリ、緊急で出産しなければ子どももCさんも危ないということで母体搬送となった。

Cさんの語り：そのときはもう、真っ白、頭が真っ白っていうか、「私どうなるんだろう」というような感じで。何も先生に詳しいこと聞けなかったんです。普通に産むのか、帝王切開になるのかもちょっと、聞いたのかもしれないんですけど、覚えてなくて。

「こういう状態だから、帝王切開になるんだろうな」と思いながら、検査とか処置とかしてもらって。で、そのときに、看護師の方が、あ、助産師の方が、普通に、普通の世間話みたいにしてくださったのが、よかったっていうか、気が紛れたっていうか。ほんとに普通に、「昨日、今日は夜勤明けでね」とか、そういう、「ちょっと疲れました」みたいな、普通の話をしてくださって。

看護師の世間話により、不安や緊張で頭が真っ白になっているCさんは、ふと日常に戻れた。

1. 何故Cさんは、このような感情が生じたと思いますか？
2. 看護者ができることに何がありましたか？
3. 異なる結果をもたらす可能性はありますか？
4. 皆さんが臨床で応用するために乗り越えなければならない課題はありますか？

II 出産時

Eさんが出産したとき、分娩室では助産師、産科医、小児科医がいたが、誰もが無言だった。そのためEさんには、わが子が生きているのかさえわからなかった。

Eさんの語り：そこまで生きてるかわかんなかったんです。泣かないし、生まれてすぐにパッとNICUの先生が保育器温めてたので、パッと渡されてしまって。そのあとは、私の後産とかの始末で黙々としていて、で、赤ちゃんも泣かないし、新生児のほうの先生も何も言わないので、「生きてるのかなあ」と思いながら。それで、「生きてますか？」って聞くのは、すごい怖くて聞けなくて。怖かったので、「男の子だったのか女の子だったのかをとりあえず聞こう」と思って。で、産科の先生は生まれた瞬間に見てなくて、「そういえばどっちだったのかな」という感じで。「女の子ですよ」とか小児科の先生から言われて。そして産科の先生が、「女の子、生命力が強いから、きっと大丈夫だよ」と言われたから、「生きてるんだなあ」という感じで。

生まれた直後に泣き声が聴こえない子どもの様子を知らせてくれず、生きているのかも怖くて尋ねることができなかったEさんは、NICUと分娩室とを行ったり来たりして子どもの様子をタイムリーに知らせて欲しかった。

Eさんの語り：赤ちゃんが生まれた直後に行ったり来たりして、「今、だいぶピンク色になってきましたよ」とかいう感じで、メッセージみたいな感じで。「今血圧がいくつで」とか医学的な怖い話じゃなくて、あの、「だいぶ落ち着いてきましたよ」とか、「今こんな状態で、酸素も入れて、呼吸も落ち着いてきましたよ」という感じで、病院の人が、主人じゃなくて、病院の看護師さんとかが言ってくればよかったかなあと思うんですけど。

1. 何故Eさんは、このような感情が生じたと思いますか？
2. 看護者ができることに何がありましたか？
3. 異なる結果をもたらす可能性はありますか？
4. 皆さんが臨床で応用するために乗り越えなければならない課題はありますか？

Ⅲ 出産後

ナースステーションから一番遠い6人部屋を一人で使うことになったBさんは、訪問者のいない部屋で一人で過ごしていた。

Bさんの語り：人が通るっていうだけでも、なんていうのかな、人が通って、「見てるよ」というサインをしてくれるだけでもいいんですよ。「見守ってるよ」みたいなのを。あの、一番奥で、誰も通らない部屋で、一人で6人部屋にいるっていうの、ものすごく辛いですね。それで、母乳もとめられて、おっぱいもはってきて、でも、この苦しみを誰にも言えない。私がおのとき何をしてたかっていうと結局、クラシック音楽を聴いてずっと過ごしてた。あの、ドヴォルザークの新世界。もう、CDウォークマンを持ち込んで、それをずーっと聴いてましたね。それしかする術はなかったですね。それが一番、なんていうのかな、妊娠する前からわりと、体にあってて。それが自分の体にもしっくりきてて、それは…よく聴いてました。それで、「よし！よし！」って、「これから新しい世界に行くんだ」って自分で鼓舞してたのかもしれない（涙）

あの、個室もあの、扉を開けてもらわないと人が来てくれないっていうのも良し悪しで。6人部屋とかで、カーテンで仕切るっていうのも、人の音がするっていうのもいいと思うんですね。やはり「見てるよ」というサインは欲しかったですね、いちばん奥の部屋でも。「何してるの？」っていう一言でもやっぱり、かけてほしかったんだと思う。

6人部屋を一人で使わせてもらえて、「よくベッド空けてられたな」と配慮されていたことはわかるが、苦しみを聴いてほしかった。しかし話を聴いてくれるどころか、看護師は立ち寄ってもくれず、Bさんは辛く孤独な時間を過ごす他なかった。

1. 何故Bさんは、このような感情が生じたと思いますか？
2. 看護者ができることに何がありましたか？
3. 異なる結果をもたらす可能性はありますか？
4. 皆さんが臨床で応用するために乗り越えなければならない課題はありますか？

事例を用いたロールプレイ（産科病棟）

ロールプレイは、傾聴の技術を培うことを目的としています。難しい場面を用いることが、臨床でのかかわりを向上させるものと考えられます。用意した3つの事例の中から、皆さんが難しいと思われる1例を選択して、実施します。

事例1 母親がNICUに面会に行かないケース

事例2 夫と一緒に面会后、表情が固いが「大丈夫です」と言うばかりのケース

事例3 はじめて受け持つときが、初回面会の付き添いである場合

ロールプレイのすすめ方

1. 看護師か母親の役のロールを決めます。
ロールを演じない人は、観察者となります。
2. まず、事例を読んでください。
3. ロールプレイをはじめます。5分くらいです。
4. 途中で言葉につまってしまったり、演ずることをやめたくなくなった時にはいつでも「ストップ！」と声をかけてください。ロールプレイをやめることができます。
5. ロールプレイについて、感想を話し合しましょう。
観察者の人は、母親役か看護師役のどちらかを選択して観察します。ご自身が母親だったら、看護師だったら、どのような展開になると思うか推測しながら参加してください。演じてくださった母親役・看護師役の方々の感想や考えと異なる考えを中心にお話してください。皆さんの看護の視点を広げることに役立ちます。
6. 最後にねぎらいの拍手をしましょう。

役割分担表

母親	看護師	観 察 者			
		母親		看護師	

事例1 母親がNICUに面会に行かないケース

母親 森村恵子さん 32歳 初産婦

妊娠経過はとくに問題なく、37週に陣痛発来し、経膈分娩で出産する。

出産後、一過性多呼吸のために子どもがNICUに入院となる。

出産当日に夫とNICUへ初回面会に行き、「頑張ってね」と子どもに声をかけていた。

しかし、出産後2日目、3日目の日中は面会に行かず、子どもの話をスタッフとすることはなかった。

医療スタッフ 海野さん 助産師 産科病棟スタッフ

<場面> 出産後3日目の夜間、森村さんの乳房が緊満し、痛みを訴えナースコールがくる。

海野さんは、搾乳のケアを行なうため訪室する。

メモ

事例2 夫と一緒に面会后、表情が固いが「大丈夫です」と言うばかりのケース

母親 松木美保子さん 27歳 初産婦
IUGRのため、32週に予定の帝王切開で出産する。

夫 松木宏さん 30歳 会社員

医療スタッフ 川口さん 看護師 産科病棟スタッフ。

<場面>帝王切開後4日目の夕方、美保子さんは、宏さんとNICUに面会に行った。川口さんが美保子さんの病室を訪れた時は、ちょうど美保子さんと宏さんが面会から戻ってきたところだった。川口さんが「面会に行ってきたんですね」と問いかけると、「はい」と宏さん。「どうでしたか？」ときいてみると、美保子さんが「疲れました」と答えるが、すぐに「大丈夫です」と。「何か困ったことやわからないことはありますか？」と川口さんは声をかけるが、美保子さんも宏さんも「大丈夫です」と答える。しかし、2人とも表情は固い。

メモ

事例3 はじめて受け持つときが、初回面会の付き添いである場合

母親 中西さやかさん 27歳 初産婦

39週1日に陣痛発来し14:30に経膈分娩。

分娩中に胎児心音が下がり吸引分娩。MASのためNICUへ入院となる。

看護師 島村さん 産科病棟の看護師 本日は夜勤

<場面> 中西さんは日勤の終わりころに、会陰切開部の疼痛を訴え鎮痛剤を使用した。歩行もふらつくことなく、排尿もみられた。出血量に問題なし。

日勤のスタッフが中西さんへ、これから初回面会へ行くことを話したところで勤務交代の時間となりました。

島村さんは、中西さんの初回面会へ付き添うところから受け持ちます。

メモ

振り返りのシート(例)

プログラムに参加した後に会った NICU に入院した子どもの母親とのかかわりの場面について、かかわっている最中のあなたの考えや感情を思い出しながら、記述してください。

●なぜ、この場面を選んだのですか？

●こうすれば良かったということがありますか？

●この振り返りが提起する疑問や問題はなんですか？

→記載の方法は自由ですが、場面の選定理由、こうすれば良かったということ（あれば）、疑問や問題についてご自身で考えたことを含めて A4 の用紙 1 枚程度で記述してください。

わが子がNICUに入院した母親の語りに基づいた看護教育プログラム
フォローアップの会

I 本日の目的

フォローアップの会は、プログラムの後にNICUに入院したお母様とのかかわりを振り返っていただいた資料をもとに、共に働く皆さんと共有することを目的としました。一緒に働く皆さんと共有することで、今後よりよいケアへと応用するための実り多い機会としていただきたいと思います。

II 本日の目標

1. お母様とのかかわりについて、ご自身が振り返ったことを他のスタッフと共有することができる。
2. 他のスタッフの内省を共有し、自身のこれまでの臨床経験からのアドバイスや考えを積極的に発言することができる。

III タイム・スケジュール 休憩を含んで2時間半

(グループワーク1時間半+40分程のインタビューへのご協力をお願いいたします)

5分	会の目的・目標・スケジュールの説明と不明点の確認	
2分	振り返りの資料を読む	1人目
10分	グループでディスカッション	
2分	振り返りの資料を読む	2人目
10分	グループでディスカッション	
2分	振り返りの資料を読む	3人目
10分	グループでディスカッション	
5分	休憩	
2分	振り返りの資料を読む	4人目
10分	グループでディスカッション	
2分	振り返りの資料を読む	5人目
10分	グループでディスカッション	
2分	振り返りの資料を読む	6人目
10分	グループでディスカッション	

Total 82分(8分は予備)

* 以上が終わった後に、プログラム全体の評価に関するインタビューへの協力をお願いいたします。